

平成30年度 第4回 日野市子ども・子育て支援会議
議事録

日 時 平成30年12月26日（水）午後6時30分～午後8時30分

場 所 日野市役所5階505会議室

出席者 委員 秋山委員、嶋田委員、東委員、出浦委員、寺田委員、久富委員、
原嶋委員、青嶋委員、小俣委員、乙訓委員、小林委員、赤久保委員、
篠崎委員

事務局 谷子育て課長、木暮子育て課長補佐、佐々木子育て課副主幹、横堀子育て課
助成係長、眞砂子育て課地域青少年係長、中田保育課長、前島保育係長、堀
辺子ども家庭支援センター長、正井子ども家庭支援センター課長補佐、小出
子ども家庭支援センター地域支援係長、三輪子ども家庭支援センター主査、
奥

欠席者 赤塚委員、村田委員、三浦委員、稲田委員、土屋委員、奥澤委員、山下委員

傍聴者 なし

（開会）

会長

出席状況が過半数を超えていないため会は成立せず、会を始める前の資料確認等を行いたい
と思います。

事務局

私の方から、資料の確認と事務連絡がございます。まず、10月の人事異動により子育て課の中
で職員の異動があり、今回から事務局に奥が加わっておりますのでご紹介します。

事務局

奥と申します。よろしく願いいたします。

事務局

それでは、資料の確認をさせていただきます。事前にお送りしておりますが

資料1 日野市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果の概要

資料2 平成30年度児童虐待防止推進月間（11月）の活動

資料2-1 日野市子ども家庭相談受理件数

資料3 日野市立しんめい児童館・しんめい学童クラブ・七小学童クラブ運営業務託
の選定結果及び引継ぎ等の進捗状況について

資料4 保育フェア・保育のしごと就職フェアの開催状況について（報告）

資料5 平成30年度スーパーひのっち「なつひの」の実施報告

資料5-1 平成30年度スーパーひのっち「なつひの」参加者数一覧表

資料6 平成30年度家族ふれ愛写真展について

ここまで、事前に配布させていただきました。

それから、本日、厚い冊子「日野市子ども子育て支援に関するニーズ調査単純集計比較表」を

配布させていただきました。以上、資料の不足等は大丈夫でしょうか。

また、本日、傍聴につきましては希望がないということでございますので、よろしくお願いいたします。

会長

それでは、審議事項については定数がそろった段階で始めます。報告事項について、次第の3になります。事務局からよろしくお願いいたします。

事務局

報告事項については、会議とは切り離して説明をさせていただきたいと思います。

(報告事項)

事務局

それでは、報告事項の1「児童虐待への対応・防止の啓発について」子ども家庭支援センターからご報告させていただきます。着座にて失礼させていただきます。資料2をご覧ください。

11月は児童虐待防止月間です。子ども家庭支援センターではこの期間、児童虐待防止に関する様々な取り組みを実施いたしました。

1. 児童虐待防止のシンボルであるオレンジリボンキャンペーン

毎年、厚生労働省が全国的に提唱する児童虐待防止推進月間を中心に、オレンジリボンを着せ、児童虐待防止を訴える、オレンジリボンキャンペーンを、東京都を初め、都内市区町村が一斉に行なっています。

日野市においても、市長、副市長、教育長をはじめ、本庁舎全課の職員、また新たに市議会議員、図書館職員にも装着を依頼しました。今後も、オレンジリボンキャンペーンを広げてまいります。

2. 児童虐待防止講演会

市民や関係機関の方々を対象に、児童虐待の防止と支援の必要性、連携した支援体制の強化等についての理解を深めるための講演会を開催しました。

今年度は、11月16日(金)、市役所505会議室で午後2時から開催しました。講師は、精神科医、風の木クリニック院長 高橋和巳先生にお願いし、「わたしは悪い子? 虐待を受けた子を理解する ~なぜ児童虐待は起きるのか~」というテーマでお話をいただきました。市民、関係各機関、市職員等、120名と多くの方に参加していただきました。アンケートでも「来年も同じ講師での講演会を希望します」など、大変高い評価をいただきました。

3. 児童虐待防止パネル展示

児童虐待防止の啓発のためのパネル展を行いました。

- ・平成30年11月1日(木)～8日(木)…市役所1階
- ・平成30年11月12日(月)～29日(木)…七生支所 で実施いたしました。

4. 産業まつりでの啓発

毎年行われる日野市産業まつりで、11月10日(土)～11日(日)の2日間、日野警察署と協働し、児童虐待防止のチラシを配布し、市民への啓発を行いました。

5. 広報ひので特集記事

11月1日号「広報ひの」の最終ページにおきまして、児童虐待相談や子育て支援に関する特集記事を掲載し、虐待防止と併せ、子育て支援についての周知を行いました。

続いて、裏面の資料に移っていただき、資料2の1でございます。

日野市子ども家庭相談受理件数でございます。

平成27年度から平成29年度までの各相談受理件数等の一覧になります。

左の表をご覧くださいと思います。虐待受理件数が平成28年度に201件となっており、前

年度比倍以上になりましたが、平成29年度は165件と減少しております。しかし、左の表一番下でございます、全体の相談件数については662件から695件と33件の増加となっております。増加した相談としては不登校相談が36件、その他相談が41件の増加という結果となっております。その他相談の内容は警察や児童相談所からの住基、受理歴等の問い合わせが主なものとなっております。

続きまして真ん中の表になりますが、こちらは各ケースワーカーの訪問、所内面接、電話の対応件数になります。こちらでも年々増加しております平成28年度11,997件から平成29年度17,926件と増加しております。

最後に右の表は個別ケース会議の合計数になります。こちらは2年連続での減少となっておりますが、平成28年度のマイナス要因はカウント方法の変更によるもので、実数は増加しております。平成29年度の減少要因は多子世帯のケース会議が少なかったことによるものと考えております。日野市子ども家庭相談受理件数の説明は以上になります。報告事項1については以上です。

会長

(委員の過半数が出席) お忙しい中お越しいただきましたので、これから会が成立しました。進行については、報告事項が先になります。暮れのお忙しいところですが、ニーズ調査の関係ということで、ご苦労様でございますと申し上げて挨拶とさせていただきます。

委員

質問よろしいでしょうか。報告事項なので審議はしていただくなくて結構です。オレンジリボンキャンペーンですが、役所に来る度、市の職員や教育長がリボンをつけていて非常に気になっていました。虐待防止の推進のためだとなんとなくわかっていましたが、まだそのアナウンスが低いような気がします。また、リボンをつけるのはここに書かれているような人たちだけでよいのでしょうか。虐待の疑いを持ったらずぐに言いなさいと教職員に言っている立場なので、この期間中だけでも小学校の校長などがリボンをつけるだけでも随分印象が違うのではないかと思いますがいかがでしょうか。

会長

そのようなご意見がありますが、いかがでしょうか。事務局、よろしくをお願いします。

事務局

まずは今年度、職員全員に、それから徐々に小学校、中学校、保育園等にも広げていきたいと考えておりますので、来年度、ぜひご協力よろしくお願いします。

会長

もっと広めたほうがいいですね。

委員

質問よろしいですか。資料2-1の相談受理件数についてですが、虐待の数は減少しているが、相談受理件数は上昇している、というこの状況をどう読み解くか、ということだと思います。相談受理件数が増えているということは困ったことが増えているのか、それとも、潜在的なものが上がってきていて良いことなのか、この数字をどう読み取られているのか気になりました。

事務局

両方あると考えます。児童虐待の対応というところ、子ども家庭支援センターの存在自体が広まってきたというのが大きな理由としてあると思います。私どものところへ、教育委員会の各学校の先生方、保育園の先生方、幼稚園の先生方、民生委員、市民などからいろんな報告が入りま

す。疑いの段階で連絡してほしいということを周知しているので、本当に関係機関からの連絡が増え、それが一つの大きな理由としてあるかと思えます。

その次に、核家族化などの社会情勢だと思いますが、子育てに不安を持っている、子どもにどう対応したらいいのかわからないというお母さんたちが増えていると思います。そういった不安を持つお母さんには子育てひろば、子育てサークル、地域の方々の協力などをご案内します。両方だと思いますが、関係機関からの連絡が増えたというのが大きな理由だと思います。

会長

他にございますか。

委員

児童虐待のところでどうしても引っかかっていることがあって、以前住んでいた相模原市の話ですが、私のママ友が児童相談所にお世話になったことがあります。ご主人が2か月くらいの赤ちゃんを家の段差につまずいて落としてしまい、救急車を呼んだら病院経由で虐待ではないかと連絡をされてしまって。私もよく知っているママ友で、子どもをよく可愛がっていたのに、子どもが連れていかれてしまったことがあります。助産師さんからすると、出産の時の影響で傷が残っていたとしても、成長とともに自然になくなっていく程度のものであるから虐待でそうなったというものではないけれど、検査で虐待を疑われてしまい、それから1年間一度も赤ちゃんを返してもらえず、お母さんは泣いていました。おじいちゃんおばあちゃん総出で助けに行ったのですが、余計に印象が悪くなり、立場が弱くなって。向こうの人も、色々と確認をしないと返せないようで、段差で転んだのなら段差を解消しているかとか、おじいちゃんおばあちゃんにも面会をしていました。そういう姿を近くで見ていると、うっかりやすやす救急車を呼ぶと、疑われて、言い方は悪いが子どもが誘拐されたように回りのお母さんたちは感じていました。

会長

それこそ弁護士か何かに相談するという方法しかないのではないのでしょうか。

委員

弁護士を連れてきても社宅に住んでる友達だったので金銭的な面もあり、みんなで耐えるしかない状況で。「早く返してもらえるように検査お願いします。」と言っても、後回しにされるらしく。一番貴重な時期に離れて過ごすということになってしまいました。

会長

報告事項なのであまり議論はできませんが、事務局から一言お願いします。

事務局

お医者さまの検査結果と相模原児童相談所の方の話を聞かないと私どもは何とも言えないのですがいろんな関係者の議論の中でちゃんと調べた方がいいという結論に達したのだと思います。児童相談所の対応なので、私たちは立ち入れない部分です。

委員

本当に虐待があった時は子どもにとって救いになると思うのですが。

委員

逆に言うと、日野市の子ども家庭支援センターの場合は今みたいなケースだった場合に、親のサポートが結構なミッションだと思いますが、虐待ではないと児童相談所に取りつなぐとか、そういった機能もあるのでしょうか。

事務局

お医者様が児童相談所に連絡したので、私たちは入っていきません。

委員

後からでもそのケースには入っていけないということですか。

事務局

私たちはバックヤードにいて、家庭に戻った段階で今度は私たちがご家庭での子育てをご支援させていただきます。判断は都道府県の判断で、神奈川県なら神奈川県の判断になります。

委員

一市民が弱い立場の感覚になる。児童相談所の判断が覆せない。

会長

人権問題なので専門家、法的に対応できる人に対応してもらうというのが良いのでは。

委員

ネット記事で読んだのですが、同じようなことが全国で起きているようです。病院は病院で通告の義務があり、子どもの傷が暴力によるものなのか転倒のものか区別が難しいと、問題になっているようです。その方も何か月も親子が分離されてわが子に会えないという状況で、こんなこと実際に起きているんだと私も最近知りました。何かいい方法はないのかという感じがします。

委員

預かった子どもの人数によって児童相談所に補助金が出ているという話も聞いて、市民の中では補助金が欲しくて子どもを集めているのではないかという話にもなっています。

会長

そのような話もあるということはこちらにも伝わりました。ともかく私は弁護士だろうと思います。少し遅れて始まっておりますので、次に進ませていただけますか。

報告事項2の「学童クラブの民間活力導入（運営委託）について」をお願いします。

事務局

日野市立しんめい児童館・しんめい学童クラブ・七小学童クラブ運營業務委託の選定結果及び引継ぎ等の進捗状況について報告させていただきます。

一番目として、委託開始の時期は平成31年4月1日となっております。二番目に、応募状況ですが、説明会と見学会には9社が参加して、応募は5社ありました。三番目に選定実施日ですが、平成30年8月25日（土）に公開プロポーザル方式として実施しました。学童クラブ保護者には事前実施時間をお伝えし、事業者のプレゼンテーションと選定委員からの質疑応答については、見学できる方式で行いました。四番目に選定結果ですが、第一位として特定非営利活動法人ワーカーズコープが通ったという形です。受託候補事業者との打ち合わせ状況ですが、10～11月に事業者本部との打ち合わせを実施し、12月からはしんめい児童館の館長が引継ぎを行っています。今後の予定ですが、1～3月に事業者の学童クラブ責任者及び担当者と引継ぎを実施します。そして4月より事業者による運営を開始する予定です。その他として、学童クラブ保護者には、民営化についての状況を学童クラブのおたより等を通じ随時お知らせしてきました。4月に新1年生向けの説明会実施、6月に公募、7月には8月に行われる選定委員会の日を伝え、10月に結果を通知、12月に事業者から引継ぎ状況について、保護者向けのおたよりを配布してまいりました。簡単ですが、以上になります。

会長

ありがとうございます。ただいまの話で何かご質問はありますか。

委員

遅れてきてすみません。5社が選定の中で入られたということで、1位と2位がかなり僅差で決定し、2位以下のところは既に日野市に児童館が入っている2社も入っているのかという質問について、答えられる範囲で結構です。あとは、学童さんがいたら保護者と校長先生がちょうど七小のエリアなので、お声を聞かせていただこうかなと思ったのですが。

会長

ではまず一点目からお願いします。

事務局

一点目ですが、第1位となりましたのが今現在しんめい児童館の運営を委託している事業者になります。他のところは日野市での実績はないという状況です。多摩地区でございます。

会長

ということで、では二点目お願いします。

委員

実は私も、数字が僅差だったのにひやひやして見ていました。改めて一番上のタイトルを見ると「日野市立しんめい児童館・しんめい学童クラブ・七小学童クラブ運営業務委託」とあり、あれ、しんめい児童館はとっくにワーカーズコープが入札ですでに運営していますよね。今回はこの3つの入札だったのかと改めてわかりました。もしワーカーズコープが2位か3位になっていたら、しんめい児童館の運営も他の会社がやっていたのかと思うとひやっとしました。やっと子どもたちも館長さんや職員さんと慣れて楽しくやっていたのに。そういう状況だったのかと私もひやっとしました。反面、ワーカーズになって良かったなと安心しています。ここに書かれているような引継ぎもやっていて、私のところにも説明に来てくれています。また、館長が児童館に行き実際に職員として働いています。そこまで丁寧にやってくれているならいいなと思います。ただ、保護者の要望をちゃんと聞いているかなどは私には見えてこないもので、その辺をちゃんと聞いて運営していただけたらなと思います。

会長

ありがとうございました。その辺は行政の方で注意していただくと。その他はよろしいですか。それでは、急ぐようで恐縮ですが、報告事項3の「保育フェア・合同就職面接会について」お願いします。

事務局

資料4をご覧ください。毎年、開催している保育フェアと保育のしごと就職フェアの開催状況についてご報告させていただきます。保育フェアですが、11月2日から3日間開催しました。市内保育園の特色等を紹介するパネル展示を行い、1,757人の参加がありました。来場者数が年々増加しています。

次に、保育のしごと就職フェアは11月11日に開催しました。ハローワーク八王子との共催で13事業者が参加しました。来場者数は38人と減少傾向にあります。28年度は50人の来場で22人の採用、29年度は48人の来場で26人の採用、今年度の採用人数はまだ出ておりません。以上で報告を終わります。

会長

はい、ありがとうございました。園長先生は出られましたか。

委員

はい、両方とも出ました。

会長

一言、感想をお願いします。

委員

保育フェアの方は、市内の保育園から保育ママさんなど、市内の全ての施設にパネルを出してもらい、市内が全てわかるように取り組みをしました。保育園に入りたいという方も増えていて皆さん関心があり、連日盛況で行われました。連合会としては、公立と私立の園長が地域ごとに説明をするような体制をとっていて、皆さんにご紹介をするというのが保育フェアです。それから、就職フェアの方は私の法人も参加しました。いらっしやる方は減っていますが、お子さんを連れて来ていただけるような場であるというのがよいのか、「私でもできる仕事はありますか」という方も見えて、人数ははっきりお話できないが、うちの法人でも複数の採用につながりました。あちこちの園の見学に行かれて採用になったかと思います。

会長

保育士の資格を持っている方がいらっしやいますか。

委員

新卒はあまりいらっしやらないのですが、潜在保育士、昔は保育園で働いていてお子さんが幼稚園に入るの、という方もお見えになっていました。

会長

そういう方が大変多いんですね。

委員

いい機会となりました。

会長

ありがとうございました。他によろしいですか。はい、それでは報告事項の4「スーパーひのち「なつひの」の実施報告について」をお願いします。

事務局

それでは、平成30年度スーパーひのち「なつひの」の実施報告について、ご説明させていただきます。時間の都合もありますので、私の方からは今年度特徴的な部分を中心に簡単に説明させていただきます。平成30年度なつひのについては、7月23日から8月3日の10日間の実施となっております。昨年より豊田小と潤徳小の2校が増え、10校での実施でした。これまでは、夏休みの前半と終わりに2回に分けて実施しておりましたが、平成30年度は夏休み期間短縮になりましたので、前半に集中して実施しております。その関係で参加人数については昨年在6,113人と6000人を超えていましたが、今年は5,934人と延べ人数では減っていますが、一日一校あたりの平均人数は平成29年度は51人、平成30年度は59人と増えている状況です。それから、1枚目の裏面をご覧くださいと、なつひの参加者数一覧表というものがございます。こちらの表の一番右に「最高気温」というのが書いてありまして、ご存知の通り非常に暑い夏ということで、7月23日39℃を

頭に、35℃以上の日が半分ほどになっています。ちなみに、平成29年度は最高気温が34℃、それも一日だけということでしたので、今年の暑かった夏がここからも見てとれます。このために、現場の方々は暑さ対策ということで、冷房の効いた屋内でクールダウンをさせながら外遊びをさせていて、子どもたちからは外遊びの時間が制限されて不満の声もあったようですが、現場の方々が工夫して対応していただき、平成30年度ならではのご苦労だったかと思います。そのほか、学校別の参加人数等については、お時間がある時にご覧いただければと思います。早口でございましたが、私からの説明は以上です。

会長

何か言っておきたいことはございますか。

委員

今年は気温が異常に高く、私も長い教員生活で初めて夏のプールを中止にしました。スーパーひのちとしては最高気温が何度なら中止にするという基準はあるのか、また暑さ対策は何かされているのか、心配なのは行き帰りのことです。遠い子はずっと歩いてきますので、そのあたりのこと、今後に向けて考えていかなければならないのかなと感じました。

会長

そういうご意見もありますね。

事務局

明確に何度になったらどうということではないのですが、学校によって大木や木陰があるなど状況が違うので、一律にするということではありません。学童クラブも同じですが、子どもたちは中だけではストレスがたまるので、外遊びもさせます。ただ、例えば20分外で遊んだら20分クールダウンをする、水分補給は確実にするなど工夫しています。学校までの往復というのはこちらではなかなかケアできない部分でございます。暑い夏は今年だけではなく、今後も増えていくかと思いますので、保護者にそのあたりの配慮をお願いするという必要かなと思います。それから、屋内遊びが広いスペースでできるように、さらに場所を借りるなど場合によっては学校をお願いするという必要になるかと思います。以上でございます。

会長

そういうことで対応しているということですね。せっかくやって何かあった場合は大変なので、保護者にもお願いをしていくということですね。

委員

パートナーさんも気をつけていただきたいと思います。ご高齢の方もずいぶんいらっしゃるのです。

会長

他にございますか。

委員

PTA協議会としては本当に感謝申し上げます。ニーズがものすごく多くて、子育て課長には懇談会にも来ていただいて、協議会からの要望は伝わったかと思います。表の黒枠のこだわりランチの日に参加者がとても多いですが、保護者や参加者にとってこだわりランチはすごく人気で拡充してほしいという意見はあるのですが、その要望は別のセクションであるということを重ね承知しています。ただ、これが連動して参加者が増えているので、パートナーさんや色々なやりくりが心配だなと思います。また、お弁当のこと、給食に送り出すのか連れ出すのか難しいなと思

っていて、大変さが聞こえてきているのかということ。あとは、毎年2校ずつ増やしている中人材確保が大変だと思いますが、工夫されている点があればお知恵を教えてください。私は内情的にパートナーさんが大変だということがよくわかっているのですが、一般の保護者としては小学校17校ある中でどうしても不公平感があるという声が出ています。予算が限られているというのもわかるけれど、2校ずつでなくていいものとしてやるならもっとどーんとやってもいいのではないかという声はどうしても消えないので、その声だけはお伝えさせていただきます。

事務局

こだわりランチがある日については、おっしゃるように非常に参加者が増えています。現場に混乱がないかという正直全くないということはないです。開始して2～3年目のところは腹積もりがあるので対応がしっかりできていますが、今年度初めてのところは、パートナーさんやコーディネーターも対応に四苦八苦したということは聞いています。全校実施については、色々ところでご要望いただいていることは重々承知しております。ですが、従事される方にとっては朝から夕方暑い夏に従事するというのもあり、地域の方にご負担いただいているので、力技でやるわけにいかず、ご理解をいただいていることなので、しっかり段階的に拡大を続けていきたいと思います。それから、人材確保については、まずPTAにご協力いただきました。また、今年のはひのちがスタートして以来のパートナーの一斉募集を12月に行いました。全部で約10回説明会を実施し、初日で40人以上、全体では100人以上の方に来ていただいて、これから実体験していただいて最終的にご従事いただくという流れになっております。

委員

これはすごい事業だなと思います。あれだけ灼熱の中でひどい目にあったスタッフの方々のアンケートで「来年度も協力する」が79%で「協力しない」は0%、スタッフの人たちが「この事業は必要だ」と言っていて、ボランティア精神の人たちに支えられていて、小学生の行き場のない夏休みをクッションにしてくれるいいプログラムだなと思います。でも反面心配な面もあって、主催が子育て課になっていると「預ける場所」となって当初の趣旨と変わってくると思います。「そっちの主催の責任の下でやったのにこうなってしまってどうしてくれるのか」という話が出てくると思います。進め方で意思が変わらないよう、「保護者にも責任がある」というようにオープンにする関係をうまく踏んでいく必要があるなと思います。

会長

ありがとうございます。それではひのちの件はこちらで以上となります。最後に「平成30年度家族ふれ愛写真展について」よろしくお祈りします。

事務局

平成30年度家族ふれ愛写真展について説明させていただきます。資料6をご覧ください。日野市では毎月第3日曜日を「家族ふれ愛の日」と定め、家族のふれ合いを通して心のかような家庭づくりを啓発しております。「家族ふれ愛写真展」はその啓発活動の一環として毎年行っているもので、今年度11回目となりました。今年度も10月の1か月間作品募集を行い、期間中にイオンモールでのPRを経て、前年の49作品から1割強増加の55作品の応募がございました。表彰式は仲田の森蚕糸公園で開催された「あきなかだ」の中で行い、家族ふれ愛大賞、家族ふれ愛賞受賞のご家族にご出席いただきました。今後の予定ですが、来年1月8日（火）から市役所1階の市民ホールにて写真展を開催いたします。お時間ございましたら、委員の皆様にもご覧いただければと思います。裏面をご覧ください。こちらは、家族ふれ愛大賞の受賞作品、イオンモール多摩平の森でのPR、あきなかだでの表彰式の様子となります。説明は以上となります。

会長

はい、ありがとうございました。これについて、何かございますか。なければ、報告事項は以上となります。今日の本題になります審議事項について、事務局の方からお話ししていただけますか。

(審議事項)

委託事業者

本日もよろしくお願いいいたします。それでは、着座にて説明をさせていただきます。

それでは、事前資料で配布のありました、資料1を見ていただけますでしょうか。目的等についてはこれまでの会議の中で報告をしておりますので、3の「配布回収数等の状況」について見ていただきたいと思います。それぞれの回収数については12月10日現在の数を入れています。それ以降も若干返りの方がありますので、そちらも最終的なアンケートの報告書には集計させていただき、少しでも多くご意見を反映した報告書を作成させていただきたいと思います。一番右に「回答率」と入っておりますが、5年前の調査と比べると「市内の企業」以外については基本的には回収率については上回っている状況です。すみません、これは「回収率」の間違いです。特に大規模で行っている「未就学児保護者」と「小学生児童保護者」については5ポイント以上の回収率が得られていますので、非常に関心の得られた結果になっているかと思えます。

それでは、本日机上資料となっております「日野市子ども子育て支援に関するニーズ調査単純集計比較表」というもののご説明をさせていただきます。表面に①～⑧まで区分が入っておりますが、④の「高校生」については直近で調査を実施し本日の集計には間に合っておりませんので未集計となっており、最終的な報告書の方では入れさせていただきたいと思います。今回こちらの結果は単純集計ということで、設問ごとに「選択肢の件数」そして「割合」を表示しております。単数回答「一つを選んでください」というものはすべてを足すと100%ですが、「あてはまるものすべて」というものは100%を超える形になりますのでご注意ください。今回平成30年になりますが、5年前にかなり類似している調査を実施しております。設問や選択肢を合わせて調査を実施しておりますので、5年前とどのような関係でどのような結果や変化があるのか、「H25」というものは5年前の調査と比較しているの、割合が変わってきているところを見ていただくとニーズの変化が見られるのではないかと思います。本日時間が限られていますので、5年前の調査と比較して変化があったところや、これまでの会議の中で新しい設問でご意見をいただいたところに着目して報告をさせていただきたいと思います。最終的にアンケート報告書の段階ではクロス集計という形で、例えば年齢別にクロスをしたり、設問間でクロスをしたり、そういったところで傾向をさらに分析しながら報告書をまとめていきたいと思えます。そしてもう一点、本日の資料については、ニーズの変化がわかるような形になっていますが、この計画の中ではニーズ量を今後検討していく形になります。今回の結果イコールニーズ量ではないということをご留意いただけたらと思えます。と言いますと、ニーズ量を把握していく時には「就労状況」や「保育を必要とする人」、「実際に利用できる人」などを集計かけ、さらには人口推計とかけ合わせていくこととなりますので、このまま「量」にならないということになりますので、まずはニーズの傾向を見ていただきたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

少しボリュームが多いので、①と②を説明させていただきます。それでは、2ページをめくってください。こちらが「就学前児童保護者」になりますが、問1「子育てを楽しいと感じることが多いですか」について、「楽しいと感じることの方が多い」と「楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい」という、楽しいと感じることが多いところの割合について、25年と比べると若干増えているというところがあります。そして、問2についてですが、25年の区分で斜線が引いてありますが、今回会議でも議論いただいた「子どもだけで安心して遊べる場が少ない」というのが下段にあります。こちらの割合が24.9%で新たに選択肢として追加したところで、非常にニーズが高く出ています。この部分については、小学生の方でも同様のことが言えるかと思

いますので、後ほどご説明させていただきたいと思います。

3ページの間5「ご家庭では、あて名のお子さんをどのようなときに叱りますか」について、5年前と比較して増えているのが、「生き物をいじめたとき」「うそをついたとき」「共の場で迷惑をかけるとき」というところです。一方で「親の言うことを聞かないとき」5年前と比較して若干少なくなってきたというものが変化としてあります。

4ページ間10「子育てをする上で、気軽に相談できる人はいますか」という質問で「いる」という83.6%と非常に高いですが、5年前では90%を超えておりますので、子育てに相談できる人が少なくなってきたという傾向があるかと思えます。

間11「子育てに関して気軽に相談できる先は誰ですか」というところですが、「子育て広場」が5年前と比べて高くなってきているということがわかるかと思えます。

間12「地域に親子でつきあえる知人または友人などがいますか」ということで、「気軽におしゃべりできる人がいる」が前は60%以上ありましたが、50%台に下がってきていて少し変化が見られます。地域での親子で付き合える方が若干少なくなってきたという状況があるかと思えます。

間13「地域の人から見守られていると感じますか」ということで、5年前にはありませんが、「どちらかと言えば見守られていない」「まったく見守られていない」という回答が15%近くお見えになるという現状があります。

この部分と関係がありそうなのが、5ページ間14「あなたは日常生活において孤立感を感じていますか」ということで、「強く感じる」「やや感じる」という割合が20%近くあります。「地域での見守られている感」、「日常生活での孤立感」というところが、「地域での孤立感」「家庭での孤立感」と関係性があるかと思えます。前にありました「子育ての楽しさ」も相関がありそうな結果ではないかと思われます。

そして「孤立感を和らげるためにどんなことが地域で必要ですか」ということで、間15ですが、最も高く出ているのが「時には自分のための時間を持つように、子どもを預けられる場」「本音で子育てについて話ができる人」であり、こういったところを求めている結果が出ているのではないかと思えます。

間17で就労状況を聞いていますが、25年と比べると、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」についてそれぞれ割合が高くなり、一方で「以前は就労していたが、現在は就労していない」という専業主婦の方が減っています。間17から就労状況の変化がわかるかと思えます。

そして、6ページ目で、一週あたりどれだけ働いているか、1日あたりどれだけ時間働いているかという設問がありますが、ここの部分は5年前とおおむね変化がありません。就労状況のフルタイム家庭・パートタイム家庭は増えていますが、働き方自体はそれほど変化していないという状況がこの結果から出ています。

7ページの間18「今現在パート・アルバイトの方がフルタイムへの転換希望はあるか」、さらに間19「今現在働いていないが今後働く意向があるのか」、というのは5年前とあまり変化が見られていないので、今現在の家庭類型から潜在家庭類型、どのような家庭類型になるのかという変化はあまりないこととなりますが、今現在の家庭類型自体が5年前と比較すると変化が見られるということが、これらの結果から出ています。

9ページ目の間20「あて名のお子さんが生まれた時、育休を取得したかどうか」ですが、母親を見てみると、「取得した」が5年前は34.0%、今回が44.7%になりますので、育休取得率は非常に高まってきているということがわかります。

13ページ目の間27「幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育事業」の利用状況について」ですが、「利用している」が70.6%で、5年前と比較して非常に高まっています。就学前施設への利用率の全体がここでわかります。

そしてその内訳として、間28でそれぞれの施設ごとの利用状況が示されておりますが、ここで着目しなければならぬのが、「認可保育所」が5年前48.9%に対して今回が54.4%、そして「幼

稚園」が5年前37.5%に対して今回30.6%となりますので、認可保育所の利用状況が高まり、幼稚園の利用状況が下がっているというところが大きなところでわかるかと思えます。

次に15ページ目の問33ですが、こちらは先ほどと同じ選択肢ですが「希望」という形になります。こちらについても、「認可保育所」が前回48.1%に対して今回58.1%、「幼稚園」が5年前53.0%に対して今回45.1%となっていますので、ニーズについても認可保育所の高まり、幼稚園ニーズの下がりというのがこの結果からわかるかと思えます。

そして問36ですが、「この1年間に、あて名のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できないことがありましたか」という設問で、「あった」という割合が72.2%で25年の調査とほぼ同等に、7割以上の方はそういうことがあったと回答しています。

その時にどのように対応したかというところが16ページ目の二つ目の表で「父親が休んだ」「母親が休んだ」という割合が5年前と比較すると高くなっています。父親と母親が会社を休んで対応したという割合が高くなっています。一方で「病児・病後児の保育サービスを利用した」という割合は若干増えているもののそれほど大きな伸びをしていません。子どもが病気やケガになったとき、父親・母親が会社を休んで対応している、幼児・保育サービス自体の利用状況の高まりではなく、職場との関係の中で対応しているという状況が見られます。

そしてそれらが顕著に表れているのが、父親が休んだ日数、母親が休んだ日数、ほぼ同等の日数になっています。それに対して「オ 病児・病後児の保育サービスを利用した」という日数については25年は2.96日、30年は3.68日となっており、「日」の伸び数が増えています。そこから、利用者自体はそれほど変化がないが、利用日数が伸びているという点がこの結果からわかるのではないかと思えます。

そして、20ページの間45、地域子育て支援拠点事業の利用状況ですが、25年が43%に対して今回27%と非常に減少しているところです。このあたりはさらに分析をかけなければ何とも言えないところですが、就園の率が高まっている中で、一方では未就園児の利用者が下がっているという可能性もあるのではないかと思えます。

21ページ目の問47「A 知っている」というところですが、それぞれ事業の認知度を聞いています。「はい」という割合がどれも25年と比べて高くなっています。様々な事業を実施している中で、それぞれの事業によって増減はありますが、事業の認知度自体は非常に高まっているということが見られるかと思えます。

それと関連する形で、24ページ「B これまでに利用したことがある」という実績についても同様に、25年に比べて非常に伸びています。認知度が高く利用実績も高くなっているということがわかります。

26ページ目「C 今後利用したい」というところですが、それぞれの事業のニーズが高まっていますが、その中でも「児童館」が前回62.9%に対し今回80.8%、そして「ファミリー・サポート・センター」が25年27%に対して今回35.5%、そして「子ども家庭総合相談」が25年38.2%に対して今回47.4%。そして「子育て広場事業」が25年29.4%に対して30年が37.4%。ということで、利用したいという割合が非常に出てきております。事業関係と相関関係もあるので一概にすべてが傾向として読めない部分もありますが、このようなニーズの変化が見られるかと思えます。

そして31ページ目で日野市の子育て支援策について聞いています。選択肢が多いので見づらくなっておりませんが、最も高いのは児童手当など費用の助成ですが、5年前と変化を見比べると「子育てしやすい労働環境づくりの企業への啓発」や「公園など遊び場の整備」についてニーズが高まっているということがわかります。まず、未就学の方ですが、次のページから小学生児童保護者になります。かなり似た設問もありますので、小学生特有のところだけ報告させていただきます。

33ページ目問5「子育てをする上で、気軽に相談できる人はいますか」ですが、「いる」という割合が未就学と比べて少し高くなってきています。さらに25年の調査と比べても変化がないということです。戻るようなコメントになりますが、「相談できる人がいるかどうか」というところについては、未就学の方が低く、さらにその傾向は5年前と比較して悪化しているというこ

ろがわかるかと思います。

34ページ目問13ですが、保護者の現在の就労状況について、フルタイム、パートタイムそれぞれ高まりを見せているので、小学生の家庭を含めて保護者の就労状況に変化が見られるということがわかります。

40ページ問22ですが、こちらも「A 知っている」「B これまでに利用したことがある」「C 今後利用したい」とありますが、小学生児童保護者についてもすべての事業について認知度が高まり、利用実績が高まり、今後の利用希望も高まっています。その中でも46ページ目の10「ひのっ子の子育て・子育ち「知っ得ハンドブック」」が25年と比べて30年が44.6%と非常に高まりを見せています。

47ページ目の19「学童クラブ」について、25年が17.4%に対して30年が34.9%。「20 放課後子ども教室「ひのっち」」について、25年が49%に対して30年が82.4%と非常に高まりを見せています。それと合わせて、47ページ目の問23「小学校低学年の放課後の時間の過ごさせ方として何を希望しますか」という質問ですが、最も高いのは「自宅」ですが、変化が著しいのが「学童クラブ」で、25年が17.7%に対して30年が23.6%ということで高まりがあります。

そして49ページ目の問24で高学年のニーズを聞いています。「児童館」が25年19.7%に対して30年が24.1%。「放課後子ども教室「ひのっち」」が25年29.6%に対して30年が33.6%ということで、ニーズの変化が見られます。

最後になりますが、54ページ目問36「子育て支援策として今後力を入れてほしいものは何か」という設問ですが、最も高いのは児童手当等の費用の助成ですが、変化が大きいのは「子どもへの虐待防止対策と体制の整備」や「公園などの遊び場の整備」で、ニーズが高くなっています。いったん、①②の説明を終わります。

会長

はい、ありがとうございました。今回は単純集計の報告ということで特徴があるところを説明いただきました。何かあればご意見お願いしたいと思います。

委員

全体的なところで質問ですが、今後これをどのように広報していくのか、全て広報するのか、グラフにするのか、どういう計画なのか、以前お話ありましたか。

事務局

本日は単純集計で、これを色々な形で集計してさらに理解していくことになると思います。もともとこの調査が子育て事業のニーズ量を調べるための資料になります。前回とは違う調査もあるので、どのように広報していくのか検討し対応してまいります。

委託事業者

次回の会議では、表は数値の読み取りがしづらいのでグラフで表現していきたいと思います。アンケート報告書なので、問の何かを抜くということではなく、基本的にこの結果は全てアンケート報告書としてグラフにのります。ただ、クロス集計については部分的なものしかのせられないので、事務局と精査をして出させていただきます。

委員

今の補足なのですが、これはニーズ調査で計画を策定する時のベースとして市は進めているんだと思いますが、色々な数値が取れているから広報的にはアピールした方がいいのでは、という校長先生のご意見なので、アピールできる場所もあるだろうし、そういうところを考えていければいいかなと思います。

会長

他はよろしいですか。

委員

要点を解説していただいて気づいたのが、20ページの間45で、子育てひろばの利用者は大幅に減少しているという事実があって、その一方で4ページ「子育てに関する気軽に相談できる先は誰ですか」という質問で「子育てひろば」と答える人が多いという逆転が起きています。来ている人は減っているが内容はシリアスになっているのか、内容がシリアスな人はこういうところに行っているのか、と感じています。数字で出てこない案件や今後施策にするような内容が、意外とこういう落差に出てくるという印象を持ちました。

会長

ありがとうございます。次の会議までに2か月ありますので、また読み解いていただきたいと思います。

委員

回収状況をどう捉えているか。学生は大人よりまじめに答えてくださったんだなと思って。高校生は惜しかったですね。あと1通だったんですね。何か工夫されたのですか。中学生がすごい低いですが。

事務局

中学生は無作為抽出で、こちらからアンケートをお送りして返送いただきました。高校生については、前回もそうですが、市内の都立高校に協力をお願いして、小学生本人も同じですが、学校で取り組んでいただいたということで、このような回収率が出ております。

委員

小学校は確かに教室で配れば子どもたちはやらなきゃいけないものだと思うのですが、中学生の回収率が低いのは私たちの責任でもあると思います。設問が多すぎた。小学生はA4一枚で、中学生は何ページにもわたっていて、これが送られてきたら「うわ、こんなに」と印象的なものだったのではないかと感じました。もう少し精査してもよかったかなと思います。

委員

私も感想的なことですが、こういうデータって前回いただきましたっけ。こうした生のデータが見られるのはとても興味深くて見入ってました。時代の変化や傾向が読み取れる感じがして興味深いです。

今ご説明いただいた中で、2ページの間2「子どもだけで安心して遊べる場が少ない」というところですが、これだけニーズがある中で、遊び場をやりつつもプレーパークの認知度がまだまだ低いなと感じています。ただ、自分たちでやっても人がそんなに増えている感じがしません。その傾向は共働きの人が増えているのが如実に表れていて、地域の中で知り合いとか育てている人が減っている感じがします。働きたい人が働ける世の中というのはとても良いことだと思いますが、その反対側の地域との繋がりというのが徐々に薄れてきているという実感が数字にも表れているのかなと思います。クロス集計を楽しみに、この結果もじっくり見させていただきます。ありがとうございます。

会長

ありがとうございます。それでは、後半をお願いします。

委託事業者

55ページ目から始めていきます。中学生本人について、抜粋して説明させていただきます。

問2「普段から次のことをしていますか」ということですが、気になるところとしては「②朝食をとる」が前回90.9%に対して今回84.7%となり、朝食の欠食の状況が課題として出てるのではないかと思います。

56ページ問3「次のことはあなたにどのくらいあてはまりますか」というところですが、変化が大きいところとしては、「②人前で自分の意見をきちんと言える」の「とてもあてはまる」という割合が高くなっています。「③自分に自信がなくなる時がある」の「とてもあてはまる」割合が、逆説的ですが高くなっています。「⑤自分は愛されていると感じる」の「とてもあてはまる」割合が低くなっています。人前で意見を言える割合が高くなってきている一方、自分に自信がなく、愛されていると感じることが低くなっているという状況が出ています。

58ページ問11「学校は毎日楽しいですか」という質問で「とても楽しい」「まあまあ楽しい」の割合が8割を超えています。この結果は5年前とおおむね変化がない状況です。問12「楽しいと思う理由は何ですか」というところで、「授業が楽しい」という割合が非常に高くなっています。一方で問13「楽しくない理由」では、逆の回答が出ています。楽しくない理由の件数が少ないということがありますが、この現象から、二極化していることが読み取れるのではないかと思います。

問14「友達・クラス・学校との距離について」というところですが、「①自分の気持ちをわかってくれる友達がいる」の「たくさんいる」割合が減っています。そして「②自分を友達に理解してもらおうと努力している」の「している」割合も下がっています。「③誰とでも仲良くなれる」の「とてもあてはまる」も下がっています。「④自分はクラスにとけ込んでいる」の「とてもとけ込んでいる」も下がっています。この、友達との関係というところに課題が見られるのではないかと思います。

62ページ問22「あなたは自分専用として次のものを持っていますか」ということで、スマホの割合が非常に高くなっています。前回は2割で今回6割となっています。

63ページ問29「普段学校や地域で活動していることについて」ということで、「学校の部活動」「学校外のクラブやサークル」が減っており、「得に活動しているものはない」が5年前と比べて高くなっています。

65ページ問32「将来のイメージ」ということで、「できる」割合が前回63%に対して今回58.4%と、下がっています。

問33「学業を終えて社会に出た時のことを考えて、どのようなことを不安に思いますか」ということで、「ちゃんとした収入を得て生活していけるか不安」という割合が高くなっています。問34「日野市子ども条例」の認知度について、1割切っているが少し上がってきているという状況です。

66ページ問37「近所の人とあいさつをしますか」ということで、「自分からあいさつする」が62%から52.6%に下がっています。その影響か、問38の「②近所の人から注意されたこと」についても、「ある」の割合が下がっています。先ほど親の地域との関係性というのがありましたが、子ども同士の地域との関係性も希薄化している現状がこの結果から見られるのではないかと思います。

67ページ問40「ボランティアをしたことがありますか」ということで、「今までもないしこれからもするつもりはない」が5年前26.4%に対して今回40.7%と高くなっています。しかし、その下の設問でボランティアをしたことがあるという方が実際にボランティアをしてみてもう感じましたか、という回答結果ですが、「活動の内容がおもしろかった」という割合が前回36.1%に対して今回45.5%と上がっています。参加すれば、しっかりその感想をいただけているという現状がありますので、ここをどうつないでいくのかというところが課題かと思えます。

69ページから次の区分ということで成人男女ですが、問6「結婚していますか」ということで、

数が少ないですが「結婚している」割合が低くなっています。この要因としては、前回は20歳以上ということでしたが、今回は18歳以上ということで少し年齢を下げていますので、その結果が影響しているのではないかと思います。

ただ、それらの結果から、問11で理想とする子どもの人数ですが、「一人」という割合が前回6.7%に対して今回12.8%で、一人の子どもが増えているという現状があります。

そして、問12以降で家庭と仕事についての考え方を聞いていますが、「男性も女性も仕事を持ち家事や育児は分担する」という割合が高くなっています。こういったところから、男女平等参画というのは当たり前のように進んできているというのがデータの変化ではないかと思います。

71ページ問15「働いている間子どもの世話をどう考えますか」ということで、「配偶者に見てもらおう」というのが前回30.4%と高かったのですが、25.7%と下がっています。

問16「あなたが子育て支援事業を受けるとしたら、何を最も重視しますか」というところで、「保育や教育の質」というところが高まりを見せています。

73ページ問23「最近の子育て中の家庭について、あてはまると思うことは何ですか」ということで、成人男女の回答結果です。「学校や塾など外部の教育機関に、しつけや教育を依存しすぎている」という割合が前回48.9%だったのが下がり、今回34%。逆に「いろいろ悩みながらも、がんばって子育てをしている」という回答結果が、前回18.1%に対して今回33%と、悩みを持ちながら子育てをしているという割合が高くなっている現状があります。

それでは、次の区分になりまして関連事業所・団体ですが、こちらを回答いただいた施設の種類ですが、問1にあります「保育園・保育所」が半数近く占めています。そして「幼稚園」「子育て活動グループ・NPO」「その他」というような形になります。それぞれ施設の種類が違いますので、回答結果はそれを全て合算した単純集計になりまして、なかなか一概に傾向として読んでいくことはできないのですが。

その中でも、75ページ問5、先ほどの成人男女と同じような質問ですが「親が子育てに関してどのような悩みや問題を抱えていると感じますか」というところで変化が大きかったのが「話し相手や相談相手がない」が5年前は59.5%だったんですが、今回29.2%と下がっています。一方で「子どもの気持ちがくみ取れない、わからないこと」が前回29.7%に対して今回35.4%となっています。相談相手がないという状況では決してないが、子どもたちの気持ちをしっかりくみ取れていないというところで悩んでいるのではないかとということで、関連事業所・団体の方々から回答いただいています。

79ページ問17、成人男女と同じ設問となっていますが、「最近の子育て中の家庭について、あてはまると思うことは何ですか」ということで、「いろいろ悩みながらも、がんばって子育てをしている」という割合が前回78.4%から今回81.3%と、関連事業所・団体の方も、こちらにあてはまるのではないかと、という回答をいただいています。

そして80ページになりまして、市内の企業に答えていただいた回答結果です。基本属性として、「日野市で業務を始めてから何年経っていますか」ということで、最も多く回答いただいたのが「20年以上50年未満」です。

問3で職員人数については「50人未満」が半分近くというかたちです。

問4では「仕事と子育てを両立させる上で障害となっていること」ですが、「当日急に残業が入ってしまうことが多い」が5年前と比べて高くなっています。

問5「仕事と子育ての両立が可能な環境を整備・充実していく上で何が最も重要だと思いますか」というところで、「子育て期に多様・柔軟な働き方が選択できるよう制度等を見直す」という割合が前回と比べて高くなっています。

問6で「仕事と家庭の両立しやすい環境を整えることは事業所にとってメリットがあると思いますか」という問で「ある」という回答が前回68.2%から今回78.8%と非常に高まりを見せています。

そしてその取り組みとして、問7で「①現在取り組んでいること」「②今後取り組みたいと思っていること」、それぞれ回答結果をいただいています。傾向として、現在取り組んでいる割合

が低いものは今後取り組みたいと思っていることが高く、一方で、現在取り組んでいることが高いものについては今後取り組みたいと思っていることが低くなっています。ただ一つだけ傾向が違うものがありまして、「有給休暇の取得促進」が今回42.4%と非常に高いわけですが、今後取り組みたいと思っていることについても、21.2%と非常に高くなっています。こちらの分析ですが、全ての事業所が有給休暇の取得促進の取り組みをしようとしているということが、うかがえるのではないかと思います。

問8「子どもの体験活動や就労体験など具体的な支援を行っていますか」というところで、前回38.6%に対して今回45.5%ということで、行っている事業所が増えてきているというところですね。

それでは最後に、小学生本人の説明をさせていただきます。

問2「現在過ごしている場所」と「過ごしたい場所」を同じ選択肢で出していますが、それぞれの割合の高い低いありますが、上下の設問の割合を横に並べて比較してみると、今過ごしている場所が高く、過ごしたい場所が低くなっています。ただ、逆の傾向が出ているものがありまして、今過ごしている場所が低くて過ごしたい場所が高いものが三点あります。「祖父母や知り合いの人の家」「友だちの家」「公民館、図書館など市の施設」です。この部分にニーズ、というより子ども本人の意向が含まれるのではないかと思います。

84ページの問5「あなたは、ふだん悩み事を誰かに相談したいと思いませんか」ということで、「とても思う」「思う」の割合が3割となっており、3割の子どもたちが普段誰かに悩み事を相談したいと思っているという状況です。

普段悩み事を誰に相談していますか、ということで、問6で「親」「きょうだい」「友人・知人」等々あるわけですが、着目しておかないといけないのは、「誰にも相談しない」という割合が17%いるという現状です。

そして最後になります、問7「現在の悩んでいることや不安に思っているものは何ですか」ということですが、「勉強のこと」「友だちのこと」が高くなっている状況です。走った説明となりましたが、説明は以上です。

会長

はい、ありがとうございます。今までのお話の中で、わからないことや何かご質問等あれば、お話しいただけますでしょうか。

委員

中学生の回答を見るとずーんとくるような感覚もありますが、ご説明いただいたところをかいっつまんで考えると、66ページの減少傾向にあるということと67ページのボランティアに対する考え方をクロスすると、人に興味がなくなっているような気がしました。ボランティアの中身も「内容が面白い」というのは主体的な話であって、ボランティアをやり始めて初め中学生が近所のおじさんに「よく来たな」と感謝されていい気分になってまたやるという傾向があると思っていましたが、どうもそうではないのかなと感じ取れました。

あと、73ページの成人男女で興味深いなと思ったのは、「外部の教育機関にしつけや教育を依存しすぎている人は減っている」と言っておきつつ、71ページ「子育て支援事業に何を最も重視しますか」で「保育や教育の質」となると、本当かな、という感じがします。先ほどの報告事項のひのちにも通じるわけですが、いろんなものがお任せ状態になりつつある、というのも世の中の感覚として出てきているというのがデータを見て感じました。嫌だなという感じがします。

委員

私も同じページを選んでいたのですが、日野市だけの調査ですが、世の中や社会をぎゅっと詰め込んだような縮図のように読み取れました。やはりこれから先、学校にも地域にも持ち帰らな

ければならない課題をたくさん見せつけてくれたような印象を持ちました。

注意されたことが少ないというのは、中学生に聞いているから中学生はそう感じていますが、私たち大人が中学生を迷いなく注意できるかという、注意できないですね。下手に注意すると不審者扱いされる、そういう世の中になってきています。

ボランティアについてもそうです。やれば楽しいとわかっているのに、夏休みのプールで6年生を募集して、低学年の手を引いてあげるといふのを私はずっと昔からやっているのですが、そうするとみんな喜んでくれて、次の年の6年生になったら真似してくれます。でも、そういう経験がないとできない。これは学校の宿題です。地域の方をお願いしたい、とそんな感じがしました。

それからもう一点、特別支援、発達障害の子たちが本当に増えています。どの教室にも3、4人あるいは5、6人いて当たり前です。ところが、この数字でびっくりしました。集計結果のどこでしたか、就学相談ご存知ですか、というところで、あまり知らないんですね。小学生に上がってくるとさすがに就学相談のことはみんな知っています。数字がぐーんと跳ね上がっています。まず未就学の方で保護者が就学相談について関心を持たないし知らない、だからそのまま小学校に上がってきってしまう。小学校で授業を受けられなくて、立ち歩いたりトラブルを起こしてしまう。これが永遠になくならない。どんどん増えてしまっていて、どうにかしなくてはならないかなと思いました。

会長

また、次回にそうした問題も含めて、話せればと思います。ありがとうございました。それでは、次第の「その他」について、事務局からお願いします。

(その他)

事務局

その他について、特段、議題はご用意しておりません。

次回の日程の確認だけさせていただきます。次回は年が明けて来年の2月21日（木）に第5回子ども・子育て支援会議となります。会場は今日と同じ会場となりますので、ご予約の方よろしくをお願いします。

会長

次回が最後になりますね。スケジュールに入れておいていただければと思います。今日は暮れのお忙しいところ、ありがとうございました。どうぞよいお年をお迎えください。

次回日程

日時：平成31年2月21日(木) 午後6時30分～午後8時30分

場所：505 会議室